表６　仔牛の寒冷対策

寒さを感じさせないために…	なぜ？	寒冷対策
体を濡らさない (写真16)	体が濡れると、水分蒸発時に熱が奪われる	乾いた敷料をたっぷり入れる 寝床の排水性を良くする 寝床の掃除をこまめに行う
体に風をあてない (写真17) (換気はするが直接風をあてない)	風があたることで体感温度が下がる	板などで仔牛の側面３方向を囲う すきまは埋める
温かい場所をつくる (写真17)	体を温められる場所があることで、寒冷ストレスが軽減される	日光が当たるようにする 例)ハッチを南向きに設置 ヒーター、湯たんぽなどの利用
暖められた空気(熱)を逃がさない (写真18、19、20)		板などで仔牛の側面３方向を囲う 板やシートで低い天井をつくる 全体をシートなどで覆う カーフジャケットの利用
冷たい場所をつくらない (コンクリートの床や壁など) (写真16)	直接体に触れるのはもちろん、近くにいるだけで冷たさを感じる(冷える)	乾いた敷料をたっぷり入れる 冷たい壁には板やスタイロフォームなどを貼って断熱する
給与エネルギーを増やす	代謝を上げ、体温を維持しやすくする	ミルクをいつもの10～15%増やす または高エネルギーミルクの給与

6　毎日の観察

ただ漠然とではなく、意識をもって観察することで病気の早期発見や離乳タイミングを見極めることができます。

写真21 極度の脱水症状(目のくぼみ)

(1) 病気の早期発見＝理想は１日３回（朝・昼・晩）

仔牛は病気に対する抵抗力が弱く、突然体調が変わることがあります。微妙な変化を見逃さず、早期発見をすることで、病気も軽症で済むようになります。

＜毎日の観察ポイント＞
- 食欲（ミルクの飲みが弱い、スターターの食い込みがいつもより少ない など）
- 便の異常（血便、軟便 など）
- 鼻水、鼻の乾き、目やに、目のくぼみ、耳が垂れている など
- 毛づやが悪い、へその腫れ など
- 体温が高い(39.5℃以上)、反応の変化（元気がない、動きが鈍い など）

※いつもと違う症状が少しでも見られた場合、早めに獣医師の診療を受けましょう

(2) 離乳の目安

離乳は仔牛にとって大きなストレスです。離乳をした時にストレスに負けずにしっかり食い込めるか、ということを見ながら離乳のタイミングを決めます。

＜離乳時の観察ポイント＞
- スターターを、１日に１ kg以上、または３日続けて0.7 kg以上食べきれる
- 健康状態が良い（下痢をしていない、食欲がある、元気がある）